

# ファジル・サイ ナーズム・ヒクメット オラトリオ

Fazil Say Nâzim Oratorio

ナレーター、メゾソプラノ、バリトン、子ども、ピアノ、  
混声合唱、およびオーケストラのための  
全篇ナーズム・ヒクメットの詩による  
トルコ共和国 文化省委嘱作品

トルコ語和訳：イナン・オネル

歌詞・作詩：江崎 栄二、高橋 昭弘

サミュエル・バーバー

弦楽のためのアダージョ

Samuel Barber Adagio for Strings



## ファジル・サイ

ピアニスト、作曲家。1970年アンカラに生まれる。15歳の時ドイツから招聘されていたピアニストのレヴァインの前で演奏する機会を得、彼にその才能を認められる。1987年デュッセルドルフのロベルト・シューマン音楽院に入学、レヴァインの指導の下でピアノの研鑽を積む。1995年、ヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝、翌年にはクルト・マズア指揮によりニューヨーク・フィルと共演。2001年に「ナーズム・オラトリオ」を作曲、その後も次々と重要な作品を発表し、また彼のピアノ作品「ブラック・アース」「トルコ行進曲・ジャズ」などは世界中で愛好され演奏されている。



## ナーズム・ヒクメット

トルコが世界に誇る詩人、また社会変革、平和運動に生涯を捧げた活動家でもある。1902年セラニーク（現ギリシャ領テッサロニキ）に生まれ、1963年亡命先のモスクワで客死。日本では1950年代に作られ歌い継がれている「死んだ女の子」の原詩者として知られる。この詩と併せ、ピキニ環礁水爆実験で被爆した第五福竜丸の漁師を悼む詩「日本の漁師」「雲が人間を殺さないように」は、原水爆に関する3部作とされる。ヒューマニズムにあふれ平和を愛したヒクメットの作品は日本をはじめ世界中で翻訳され、また祖国を追われながらも祖国とトルコの人々を深く愛した彼の作品は、今もトルコの人々に広く愛読・愛誦され続けている。

## トルコが世界に誇る詩人 ナーズム・ヒクメットの詩で綴る囚われと闘いと愛の生涯

この作品は、トルコ政府文化大臣からの委嘱を受けて作曲されたもので、2001年アンカラで初演された。オラトリオという形により、全篇ナーズム・ヒクメットの詩をテキストとしながら彼の生涯を描いている。社会運動とともに詩作活動に取り組み、彼の鋭い詩作は当局の監視、発禁、投獄、亡命を繰り返し余儀なくされ、そういう激動の日々が綴られるとともに、会うこと叶わぬ家族への切々たる思いも綴られている。ファジル・サイの心揺り動かす、またトルコ風の音楽がそれを増幅させる。

その中核部分に、日本では「死んだ女の子」として知られる「女の子」の詩とそれに続いて「ヒロシマ」という詩を配することに

よって、強く反原爆・反戦を訴えており、唯一の被爆国である日本において上演される意義は大きい。曲は最後、黙示録的に世界の終末を予感させながら、しかしだからこそ真剣に生きねばならないと訴え、「私は生きたと言えるために」と繰り返しながら全篇を閉じる。

この作品では詩の朗読が大きな役割を果たすため、私たちは原詩のトルコ語を新たに日本語に訳し、全篇日本語による上演を実現させた。当公演は日本初演であると同時に、日本語による世界初演でもある。

### 《 出演者 》



#### 〈指揮〉高橋 直史

愛知県立旭丘高等学校卒業、東京藝術大学指揮科卒業、同大学大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院指揮科修了。2006年よりドイツ・エルツゲビルゲ歌劇場音楽総監督及び同交響楽団首席指揮者。



#### 〈ピアノ〉 中岡 秀彦

名古屋市立菊里高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。リスト音楽院サマーセミナーに参加。ソロリサイタル、ピアノデュオリサイタルの他、多分野で演奏活動を行う。



#### 〈詩朗読〉 阿部 一徳

俳優。SPAC-静岡県舞台芸術センター所属。サティ「スポーツと気晴らし」、ムソルグスキー「展覧会の絵」、シャルパンティエ「病は気から」その他、音楽家との共演も多数。



#### 〈メゾソプラノ〉 李 政美 (LEE JEONGMI)

国立音大在学中から朝鮮民謡、フォークソング、フォルクローレなどを歌い始める。現在はオリジナル曲を中心にジャンルを超えた幅広い活動を展開している。



#### 〈バリトン〉 新実 真琴

東京芸術大学卒業、同大学院修了。'89より名古屋を中心に演奏活動。28回のリサイタル開催。2017「戦争を拒否せよ!」、2019「反戦平和・海・沖繩」(ソングリサイタル)、他。



#### 〈児童独唱〉 高橋 寧彩

名古屋少年少女合唱団所属、小学6年生(2019年現在)

### チケットお取り扱い

#### Muse ミュースクリエート (052)910-6700

- 名古屋文化振興事業団チケットガイド (052)249-9387
- 愛知芸術文化センタープレイガイド (052)972-0430
- チケットぴあ (0570)02-9999 Pコード:170-258
- 公演事務局 (090)4117-4155

●未就学児童はご入場できません。●車椅子席ご希望の方は公演事務局にお申し出ください。●託児室をご用意いたしますので8月16日までに公演事務局にお申し込み下さい(無料)